

銘 柄 米 生 産 情 報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町

J A会津よつば（あいづ地区）・福島県農業共済組合会津支所

全国農業協同組合連合会福島県本部・福島県会津農林事務所農業振興普及部

- 高温が続いているため、出穂期は平年より早まっています。
- 斑点米カメムシ類の発生は平年より多く、注意報が発令されています。
- 高温対策の徹底と、斑点米カメムシ類の防除で、収量と品質の向上を目指しましょう。



気象情報 ～高温となる見込みです～

東北地方1か月予報（8月3日～9月4日） <仙台管区气象台 R5.8.3 発表>
確率（%）

【気温】	10	20	70
【降水量】	30	30	40
【日照時間】	30	40	30

- 平年と同様晴れの日が多いでしょう。
- 向こう1ヶ月の気温は高い確率が70%です。

凡例： ■ 低い（少ない） ■ 平年並 ■ 高い（多い）

～高温対策～ 「水管理で品質向上を！」

出穂期以降の高温は、白未熟粒や胴割米などが発生する恐れがあります。品質が悪化し、等級が低下することになりますので、下記の対策を行い、品質、収量の低下を防ぎましょう。

- 本年は、出穂後の気温も非常に高い予報になっているため、水管理は飽水管理（田面が湿っており、溝や足跡などに水がたまる程度の状態）とし、地温の上昇を抑えましょう。
- 落水は、出穂後30日を目安に行いましょう。

～斑点米カメムシ類防除～ 「発生が多く、注意報が発令されています！」

本年は、斑点米カメムシ類の発生が多く見られます。特に、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等のカスミカメムシ類の発生が多くなっています。割れ粳が発生すると被害を受けやすくなります。

- 散布剤による防除は、乳熟期（出穂7～10日後）を基本とし、その後も発生がある場合は7日おきに追加防除を行ってください。
- 水面施用剤は、穂揃い期～乳熟期（出穂5～10日後）に湛水状態で散布してください。
- 稲が糊熟期となる8月下旬頃までは、畦畔の草刈りを控えるようにしてください。

表1 主要な斑点米カメムシ類の特徴と防除例

アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	ホソハリカメムシ
		
大きさ：5mm 程度	大きさ：6mm 程度	大きさ：10mm 程度

	薬剤名	備考
粒剤	●キラップ粒剤（収穫 14 日前まで） ●スタークル粒剤（収穫 7 日前まで）	ホソハリカメムシ等の大型のカメムシには効果が薄いことがある。
散布剤	●スタークル液剤 10(収穫 7 日前まで) ●スタークル粉剤 DL(収穫 7 日前まで) ●キラップ粉剤 DL(収穫 14 日前まで)	

～いもち病防除～

- ほ場をよく観察し病斑の早期発見に努めてください。
- 葉いもちが確認されたら、早急に散布剤で防除を行ってください（表1）。
 - 散布剤は、穂ばらみ末期と穂揃期（出穂3～5日後）の2回散布をしてください。
 - 穂いもちが多発する恐れがある場合は、傾穂期（出穂10～15日後）に追加防除を検討してください。



葉いもちの病斑

表2 いもち病（穂いもち）の防除薬剤（散布剤）

薬剤名	使用時期 (収穫前日数)	使用濃度、10aあたり使用量
ブラシン粉剤DL	収穫7日前まで	3～4 kg
フジワン乳剤	収穫14日前まで	1000倍、 60～150 L

- 熱中症予防のため、こまめな休憩と水分補給を行ってください。
- 農薬を使用する際は、ラベル等を必ず確認して適正な使用に努めましょう！
- 収入保険や水稲共済といった農業保険を充分活用しましょう！